

〔第一号議案〕

― 平成 25 年度事業方針について ―

東日本大震災から 2 年が過ぎましたが、気仙沼、南三陸、石巻などの沿岸地区では、いまだに仮設診療所・臨床検査室での検査業務を余儀なくされながらも懸命に努力されている会員の皆様に敬意を表します。今後も宮城県臨床検査技師会は、日本臨床衛生検査技師会・北日本支部、東北臨床検査技師会とも連携し、必要な復興支援活動を継続してまいります。

平成 25 年度事業として、震災のため法人移行申請を延期していましたが、平成 25 年 3 月末に当会を処分し、4 月 1 日付けで新たに「一般社団法人宮城県臨床検査技師会」として誕生いたします（公益認定等委員会より答申済）。また、昨年（平成 24 年度）前期総会でご承認いただきました会費の値上げをさせていただきますのでご理解をお願いいたします。

学術面では、長年行ってきました東北地区医学検査学会を日臨技の支部化により「第 2 回日臨技北日本支部医学検査学会」として当会が担当県として、10 月 12 日、13 日に仙台国際センターにおいて開催致します。また、学術団体としての更なる発展のため、昨年刊行しました宮城県臨床検査技師会誌の継続発行、各種の精度管理事業、ホームページの外部委託によるリニューアル化、各研究部門の活発化などに取り組んでまいります。

当会は、従来と同様に日本臨床衛生検査技師会／北日本支部や東北地区臨床検査技師会そして宮城県医療整備課、県内の医療関連団体との緊密な連携のもと、会員や臨床検査に対する学術および職能団体としての役割はもとより地域医療や県民の健康維持・公衆衛生活動等への貢献を実施していきたい。

【平成 25 年度事業計画案について】

1. 学術活動

臨床検査に関する技術向上と医療知識の習得のための活動を行っていく。

- 1) 宮城県臨床検査技師会誌の発刊
- 2) 検査研究部門体制を維持しつつ、検査研究班体制の確立と活発な活動
- 3) 精度管理事業（サーベイランス、データ標準化、日臨技施設認証）の推進と普及
- 4) 第 2 回日本臨床検査技師会北日本支部学会開催

2. 公益事業

- 1) 県民を対象とした健康や感染症対策等に関する公開講演会の開催
- 2) HIV 支援事業として県内保健所における HIV 迅速検査会への協力
- 3) 県内自治体や関連団体主催の健康イベント等への共催

3. その他

- 1) ホームページの外部委託による内容の充実、更新作業の迅速化
- 2) 日臨技北日本支部、東臨技および他県技師会や関連団体との交流
- 3) 地域内の連携と連絡網の強化

【総務部門】

1. 総務・法規・組織

- 1) 会務の執行体制としては、基本的に現在の7部門（学術部、精度管理部、広報部、総務部、会計部、公益事業推進部、事務局）で行う。
- 2) 平成25年4月1日からの一般社団法人宮城県臨床検査技師会への移行に伴う各種手続きの速やかな遂行と新定款に基づく諸規程の見直しを行う。
- 3) 県内施設・会員への速やかな対応を行うための緊急連絡網を作りたい。

【表彰委員会】

1. 各種表彰

1) 青木賞

平成25年度は、第2回日臨技北日本支部医学検査学会を宮城県が担当しますので、第46回みやぎ医学検査学会は行わないため青木賞は次年度になります。

2) その他

東臨技で表彰される功労賞・奨励賞の選考を行いたい。また日臨技含む各種団体からの推薦依頼に対しそれぞれの推薦要領に従い推薦に努めたい。

【事務局】

1. 事務局運営について

- 1) 平成24年度に宮臨技ホームページを更新したので、特に学術系（精度管理も含む）と災害時の会員安否確認情報等を充実させ、会員との両通行化を計りたい。
- 2) 事務局担当事務を1名増員、また事務局庶務委員会を発足させ、委員を1名配置したことにより、よりいっそう会員へのサービスを充実させたい。

2. 機材管理

事務所配置のコピー機を、従来の白黒からカラーへ更新した。

平成25年度はこれを最大限活用することにより、研修会等の円滑な運営、質の向上を計りたい。

3. 生涯教育研修事業

現在、作業の電子化に伴い、参加登録が現場で容易に行われており、生涯教育担当者の手間が少なくなっている。ただ、事後登録せざるを得ない場合もあるが、年度を越えての申請は、期限を超えると登録出来ない場合がある為、提出は速やかにお願いしたい。また宮臨技共催による研修会は、すべて現場で登録できないため、基本的に、会員の自己申請をお願いしたい。

4. 平成 25 年度の各種会議開催

- 1) 定期総会
平成 25 年度 定時総会 1 回
平成 25 年度 臨時総会 必要に応じて
- 2) 理事会
年 6 回開催予定（原則として隔月）
- 3) その他 三役会議
年 1、2 回予定（必要に応じて）

【学術部門】

1. 日本臨床衛生検査技師会北日本支部学会

第 2 回日臨技北日本支部医学検査学会は宮城県臨床検査技師会が担当県となり、長沢光章宮臨技会長を学会長とし、平成 25 年 10 月 12 日（土）13 日（日）仙台国際センター（仙台市）で開催予定。その企画、準備、運営への協力体制を構築する。

2. 研修会・講習会等

- 1) 昨年度同様、会員のニーズに対応するテーマを選び、研修会、講習会の企画、準備、運営を行う。
- 2) 仙台市以外の、県南地区、栗原・大崎地区、登米・石巻地区での研修会を開催する。気仙沼地区は岩手県臨床検査技師会と連携し平成 25 年 12 月 1 日（日）に開催予定である。
- 3) 基礎課程の研修会を年 2 回～3 回開催予定。
- 4) 部門単独の研修会のみならず、複数部門の連携による合同研修会の開催。

3. 学術部門（検査研究部門体制）について

平成 25 年度も 24 年度と同様に会員に有益な学術的情報を発信するために、部門内活動の充実と関連部門との連携をより一層強化したい。

- 1) 広報部門との連携を強化し、学術誌の編集、発行への協力、ホームページの学術内容の充実を図っていく。
- 2) 精度管理事業への支援体制の推進。
- 3) 公益事業部との連携による、ボランティア活動への協力。

【精度管理部門】

1. 精度管理委員会

平成 24 年度から宮臨技精度管理調査は「日臨技精度管理事業データ標準化システム JAMTQC」の運用を開始した。平成 25 年度もこの Web システムを使用継続して精度管理調査を実施したい。

- 1) 実施項目は昨年同様、日臨技精度保証施設認証制度対象項目を全て満たしたい。
- 2) 実施日程は下記のように行なうこととしたい。

7月：案内郵送後に、Web参加申し込み開始

10月：試料および要綱（設問）発送

11月：参加各施設へ模範解答のメール送付、施設別報告書（Web）の解禁

12月：宮城県管轄登録衛生検査所に対する最終報告書を宮城県に送付

2月：全体報告書の発行、送付

3月：精度管理調査報告会（又は精度管理研修会）の開催

2. データ標準化委員会

「日臨技精度管理事業データ標準化システム JAMTQC」の運用を開始した。このシステムを使用した解析方法、評価方法の宮城県の適合性について常に再検討を行ないながら運用したい。宮城県の精度保証施設認証パイロット施設を中心とした「パッチワークシステム」が機能する様、精度管理委員会、学部とパイロット施設担当者との連携を図ってゆきたい。この Web システムに内部精度管理データを入力するメリットについても（日臨技精度保証部役員を招くなどして）研修会を企画し明確にして行くなど、精度保証に対する会員認識を高め、施設認証を受けるメリットについても再考してもらい、新規申請する施設を増やしていきたい。

3. 精度保証施設認証委員会

日臨技精度保証施設認証制度が始まり、宮城県の精度管理調査項目数も平成 23 年度より基準を満たしている。新規施設認証判定及び更新申請に際しては、手順に従い厳正な審査を行っていききたい。

【公益事業推進部門】

1. 関連団体支援事業

- 1) HIV 支援事業として参画している年 2 回の県内 7 保健所及び仙台市青葉区保健福祉センターでの HIV 迅速検査会への協力を行いたい。
- 2) 自治体や関連団体主催の健康イベントに共催参加して来たが、本年度も積極的に参加していきたい。

【広報部門】

1. 会誌発行事業

「ニュースみやぎ」では、総会、理事会、技師会活動等の情報提供を目的とし、年 2 回の定期的な発行を行ないたい。学術誌として内容を一新した「宮城県臨床検査技師会誌」では学部と協力して年 1 回の発行を目指していきたい。

2. ホームページ維持・更新

一般社団法人移行に伴い一部をリニューアルする予定である。今後はホームページの内容を充実させることで会員への情報提供を行っていきたい。また更新作業は業者に委託することにより迅速に行いたい。

【会計部門】

1. 会員管理

未登録の方や企業への呼びかけを行い、正会員および賛助会員の増加を図りたい。

2. 会計処理

平成 25 年度実施予定業務の内容

一般社団法人移行に向けて会計処理の適正化、簡便化を図ってきたが、今後も会費収入と事業支出のバランスの適正化を図り、長期的に安定した法人経営になるよう会計として努力していきたい。また、事業実施に当たる担当者の負担の少ない会計システムとなるようさらに工夫を重ねていきたい。